

40103航空業における死傷災害100事例 (-2017年)

No	年	月	発生時	死傷災害事例	年齢	事故の型	起因物(小)	労働者規模
1	2017	12	12~13	空港内の当社格納庫入口付近において、航空機の整備のため、機体を牽引車両で格納庫に入れようと牽引車両を動かした際、何らかの原因で航空機の左主脚が折りたたまれたことで、機体が左に傾き、当該者が左翼と地面との間に挟まれた。救出後、搬送先の病院で死亡した。	31	6	239	300 ~ 499
2	2017	12	23~24	往路の乗務終了後、タクシー乗車時に、被災者は後部座席に乗り込もうと前方ドアの縁に手をかけていたところ、前方座席に乗り込んだ別の客室乗務員がそれに気づかず、勢いよくドアを閉めたため、タクシーのドアに指を挟まれ負傷した。	24	7	231	300 ~ 499
3	2017	12	1~2	昼勤務の残業時間帯に、貨物機に貨物用パレットを載せていた。載せたパレットを固定するため、センターロックを掛けようとした際、パレットが動き出し、本人の方に近づいて来た。パレットをかわすことができず、足の甲の上のにり負傷した。	36	6	391	50~ 99
4	2017	12	17~18	乗務員用座席に着席中、ビジネスクラス最後列座席裏に収納していたアメニティーが離陸滑走の反動で滑り出てきたため、左に体を捻りながら拾った。事象発生直後や乗務中は痛みや異変はなかったが、宿泊先ホテルに到着し約14時間経過後、背骨の中央下部あたりに何かが刺さるような痛みが生じた。一時的な痛みであると自己判断し、復路便も乗務した。2日間様子を見たが、痛みが治まらなかったため整形外科にて受診した。	24	19	911	1000 ~ 9999

10	2017	10	21~ 22	作業を終え、貨物搬送車で貨物事務所前まで助手席に同乗し移動した。到着後、搬送車の助手席から降りた際、濡れた路面に足を滑らせ転倒し、路面で顔面を殴打したもの。	19	2	416	100 ~ 299
11	2017	10	15~ 16	空港内（受託手荷物仕分け場）にて手荷物（スーツケース等）仕分け作業中に腰部にやや痛みを感じていたが、そのまま作業を続けていた。その約2時間後、航空機側での作業へ移り、航空機貨物室ドアサイドにて手荷物をとりおろした際、再び腰部に激痛が走り作業できない状態となった。	26	19	611	300 ~ 499
12	2017	10	6~7	宿泊していたホテルを出て、乗務のために空港に向かうクルーバス（ホテルの出入口に駐車）に乗り込もうと早歩きをしていた。（他のクルーに遅れをとっていたため）クルーバスの前に到着した際、早歩きをしていたので勢い余って転倒した。その際、左手中指から地面につき、強打してしまった。	28	2	419	500 ~ 999
13	2017	10	9~ 10	宿泊先のホテル洗面所にて足を滑らせ転倒した際、左手の甲を強く大理石の床についた。激痛が走ったが、突き指との自己診断の下、水道水で冷却。入社までの間、痛みはおさまらず、手の平半分に腫れが出ていた。乗務に支障はないと判断し業務は実施した。機内で冷却、湿布薬を貼るも、痛み腫れ共に増してきた。	24	2	417	1000 ~ 9999
14	2017	10	17~ 18	着陸を認識し、乗務員用シートに通常の着座姿勢を取っていたが、大きな音とともに強めの衝撃があった。一部の旅客はびっくりした様子で、小さく声をあげている人がいた。腰に強く負荷がかかるのを感じたものの、痛みは無かったためチーフパーサーへの報告はしていない。次便乗務終了後、自宅への帰宅途中から徐々に痛みが出てきた。	27	19	239	1000 ~ 9999
15	2017	9	23~	機内台所にてお客様用の食事をオーブンで加熱後、オーブンのドアを開ける際、いつもは厚手のグローブを着用するが、その時は着用せずに開けたため、オーブン内の熱気（蒸気）が右腕	23	11	391	50~

21	2017	9	13~ 14	出発するために、旅客搭乗後、機内客室中央通路の手荷物収納棚を閉めようとしたが、手が届かなかったため、座席横足掛けに乗って閉め降りた。その際、収納棚の重みがかかり右足ふくらはぎに激痛を感じた。その後、右足ふくらはぎは腫れていた。	53	19	611	1000 ~ 9999
22	2017	9	2~3	前方側にあるキッチン内で、コーヒーマーカーで作ったコーヒをコーヒーマーカーのポットからお客さま提供用のポットに移しかえている時、突然予期せぬ揺れがあり、両手がふさがっていたためにすぐに固定物につかまることができず、両足で踏んばった。体が浮くような状態になり着地した際に、左の腰のあたりに違和感をおぼえた。	30	19	416	1000 ~ 9999
23	2017	8	14~ 15	屋外ヘリポートにて、機体の点検を実施しているとき、開いているレドームのパネルを固定している突出したピンが、自分の不注意により目に当たった。	22	3	239	300 ~ 499
24	2017	8	20~ 21	空港貨物地区内で業務修了後、社用車の後部座席側のスライドドア前方に手を掛け、乗り込もうとした。同時に助手席に乗り込んだ別従業員がドアを閉めた際、左手指を挟み被災した。指から出血があり、流水で患部を洗い、アルコール消毒をし、絆創膏で応急手当をした。翌日に受診した結果、左小指挫創、左環指挫傷で、7日間の通院加療と診断された。	53	7	231	100 ~ 299
25	2017	8	18~ 19	乗務中、上昇中は特に違和感はなかったが、降下開始後に機内の前方ギャレーにいたところ、両耳からゴゴゴと音が鳴り、同時に両耳が詰まった。その後、両耳に痛みを感じ、ほぼ聞こえなくなった。鼻をかんだり、顎を動かしたりしてみたが耳は抜けなかった。着陸後、痛みはなくなったが両耳は詰まった状態だった。なお、数日前より風邪の症状があり薬を服用しており、当日は鼻水が少し出ていた。	30	12	714	500 ~ 999
				乗務中、機内巡回をしている時に、降下開始に伴う気圧の変化				

26	2017	8	12~ 13	により、突然左右の耳が徐々に詰まり出した。到着後も右耳は詰まったままであったが、上昇中の気圧の変化で耳抜きが可能かもしれないとのことで、次便も乗務したが、結局一度は抜けたものの右耳は詰まりが取れず、音も聞こえにくい状態であったため受診したところ、航空性中耳炎と診断された。	29	12	714	500 ~ 999
27	2017	8	17~ 18	滞在先ホテルで仮眠後、食事を調達する為に5cm程の太いヒールを着用して外出しようとした際、ホテルのロビーフロント付近の50cm程の段差に躓き、転倒して足をひねり、外出をやめて部屋に戻った。夜に左足の甲から踝の部分にかけて激痛があったため、現地の病院を受診したところ、レントゲンでは骨に異常はなく、捻った際に踝に水が溜まり、腫れや痛みの症状が出た。	28	1	413	1000 ~ 9999
28	2017	8	7~8	当日は咳と鼻水の症状があり、二日前に診療を受け、処方された薬を服用していた。乗務中、上昇時は右耳に閉塞感があったが耳抜きが出来ていた。巡航中も右耳に閉塞感があり、降下開始後、接客中に耳抜きが出来なくなり、両耳が塞がった状態になった。数回バルサルバ法で耳抜きをしては塞がるという状態を繰り返した。到着後は降下中ほどの閉塞感はなく、右耳が詰まっているような違和感があった。二便目も同じ状態で、全体を通して痛みは感じなかった。勤務終了後に受診し、中耳炎の診断を受けた。	27	12	714	500 ~ 999
29	2017	7	18~19	周辺の天候がやや不安定であった。着陸の際、窓から外を見て着陸するタイミングを把握し、脚を垂直におろして座席に深く腰掛けた状態で背中を背当てにつけ、手でCAシートを持つ姿勢で通常の着座姿勢を取っていたが、着陸時にやや強い衝撃を感じた。その際に、首から背中上部にかけて痛みを感じた。機内25ABC上の酸素マスクが落下、13ABC頭上物入れが開いた状況だった。勤務終了後、遅い時間であったため、そ	24	19	239	1000 ~ 9999

				のまま帰宅した。				
30	2017	7	18~19	着陸時、窓の外を見てまもなく接着すると認識した上で、脚は垂直におろし、手でCAシートを持つ姿勢で通常の着座姿勢を取った。着陸と同時にガツンと体にくる強めの衝撃を感じ、鋭い腰の痛みを感じた。窓側の頭上物入れが開き、窓側の酸素マスクが落下した。肩・背中の痛みや違和感を旅客降機の機内整理時に自覚し、旅客降機後責任者へ報告。	29	19	239	1000 ~ 9999
31	2017	7	18~19	工場内ヤードで、橋梁の横桁のたたみ作業及びふだ付作業をしている時隣で、横桁の漆接板をクレーンでばらしていた。クレーンオペレーターが玉掛合図者の巻き上げストップの合図がわからなかったため、H桁に並べてあった横桁が崩れ下敷きになり足を負傷した。	25	19	371	500 ~ 999
32	2017	7	8~9	派遣先事業場にて、入荷業務として商品の棚入れ業務を行っているときに空になった鉄製の台車（180cm×50cm×180cm）を入れ替える際に強く引っ張り誤って台車の最下部分が右足くるぶし外側付近に当たり、打撲した。	44	6	391	1000 ~ 9999
33	2017	7	13~14	工場内の圧縮梱包機周辺で飛散した廃プラスチックのゴミをエアガンで清掃していたところ、機械の下に潜り込み機械の可動部まで進入してしまい、自動運転で動き出したフィルム梱包機の回転運動に被災者の頭部が挟まれてしまい負傷してしまった。	42	19	611	1000 ~ 9999
34	2017	7	11~12	カウンターでの業務中、受託したバッグをベルトコンベアーへ流すために、バッグを持ちベルトコンベアーへ倒そうとした瞬間に腰部を痛め、立ち上がれない状態となった。	21	19	611	500 ~ 999
35	2017	6	11~12	宿泊先ホテルから空港までの送迎バスを降車する際、階段で足を踏み外して臀部を強打した。痛みは感じていたが、業務に支障がない程度と自己判断し、勤務を実施した。しばらく市販の湿布薬を使用していたが痛みが治まらなかった。尾骨骨折	34	1	231	1000 ~ 9999

				と診断された。				
36	2017	6	10～ 11	降下中、着陸へ向けて前方ギャレーで片付けをしていた時、両耳が詰まり抜けなくなった。両耳共に痛みがあり、バルサルバ法を試みたが改善されなかった。当日は鼻づまり、耳づまりはなかったため乗務したが、鼻水と咳が出ていた。	33	12	714	500 ～ 999
37	2017	6	10～ 11	ギャレー内において、急いでドリンク提供対応をしており、扉を閉める際にギャレー台のバーの間に右手親指を挟んだ状態で、ギャレー台に装着されている扉を勢いよく閉めたため、親指に1cm程度の裂傷を負った。その後も出血が止まらず、強い痛みが続いた。	23	7	391	1000 ～ 9999
38	2017	6	10～ 11	客室後方の左側乗務員席に着席し、着陸に備えた姿勢をとっていたところ、接地の際の衝撃により、左首筋に痛みを感じた。	41	19	239	1000 ～ 9999
39	2017	5	12～ 13	乗務中、機内後方通路（座席35Cと35Hの間の通路）にて、カートを使用したドリンクサービス中、突然の縦揺れが発生し、カート上のポットなどを手で押さえたところ、右頸筋から肩に掛けて違和感を感じた。直後に痛みは発症せず、痛み止めを服用しながら乗務を完遂した。その後、しばらくして右頸筋から肩にかけて強い痛みが発症した。	23	19	714	—
40	2017	5	9～ 10	旅客搭乗準備中、機内後方右ドア付近の幼児用救命胴衣が収納されている天井収納棚を閉めようとしたが、手が届かなかった。飛び上がって天井収納棚を閉めようとしたところ、左母指が天井収納棚に突き当たり、痛みを発症した。	30	3	391	—
41	2017	4	9～ 10	客室後方乗務員席（R2）で、着陸に備え着陸姿勢をとっていたとき、機体が接地する際に通常より強い衝撃で接地し、着陸後に右肋骨背中に強い痛みを発症した。	24	12	239	1000 ～ 9999
				ギャレーにて着陸の片付作業を行っていたとき、オープンからスナック類を別容器に収納していた際、耐熱グローブを右手に				1000

42	2017	3	21~22	はめ作業を行っていたところ、カレー容器の蓋がはずれ、グローブ未着用の左手手首内側にカレールーがかかり火傷した。	28	11	911	~ 9999
43	2017	3	8~9	機内にて旅客搭乗に向けた準備中、新聞の束の入った袋を移動しようとした際、腰に痛みがはしった。自己判断で、痛みはあるものの乗務を継続していたところ、飛行中の揺れや着席中の振動が腰に響くような痛みがあった。	30	19	611	~ 9999
44	2017	3	12~13	後方客室内にて、機内迷惑行為を反復している旅客がいた。粗暴旅客の足をロープで押さえようと拘束する際に、旅客が蹴る仕草をしたため、避けようとし、腰を負傷した。	43	19	921	~ 9999
45	2017	3	16~17	花粉症および風邪のひき始めのような状態で飛行機に乗務した際、降下時の気圧と共に耳が詰まり、耳抜きするも抜けない状態となった。地上に降りてからも耳の詰まり具合は変わらず、少し痛みも出ていた。なお、体調については乗務前のブリーフィング時に本人から機長へ報告しており、何かあれば連絡するように、また無理をしないよう指示を受けていた。	30	12	719	500 ~ 999
46	2017	3	12~13	乗務中、着陸に向けた準備をしていたところ両耳がつまり、抜けなくなり、両耳共に強い痛みも発生した。	33	12	714	500 ~ 999
47	2017	2	21~22	滞在中のホテル内バスルームにてシャワーを浴び、バスタブから出た時、バスマットを敷いた床面に両足をついた際に、一瞬意識を失った状態になり、1、2歩前にあるいた時、顔面を壁に打ちつけた。3本の右指を切った際の記憶はない。	39	8	921	1000 ~ 9999
48	2017	2	19~20	乗務後、滞在先のホテルの浴室にて、足を洗うため両足につけたボディソープを洗い流そうと浴槽内で片足を上げたところ浴槽内で滑り背中（腰上部右部分）を浴槽の縁にぶつけた。なお、この時点では腫れはなく痛みもすぐ引いたため未受診・未報告であったが、その後も痛みがあったため後日に受診し報告	27	2	416	1000 ~ 9999

				した。				
49	2017	1	12～ 13	午前中の業務が終了し、休憩時間中、当社の従業員と思われる男性が、立体駐車場Gの下で倒れているとの電話連絡を受けた。連絡を受けて現場に駆けつけたところ、当該社員が倒れており、駐車場より転落したとの報告を受けた。	20	1	418	100 ～ 299
50	2017	1	9～ 10	乗務時、離陸後ベルト着用サイン消灯後、最後方ギャレー内で飲み物を作成し、手洗い中、背後に置かれたカート2台のうち後方の1台が倒れかかり、背中にぶつかりカートとギャレーハンドルに身体が挟まれ、腹部が圧迫された。カート上ポットから温かい飲み物が、右手肘から手首、右手甲と小指全体にかかった。	23	6	362	1000 ～ 9999
51	2017	1	1～2	航空機内で、ホットドリンクサービス中に、コーヒーポットで、コーヒーポットの蓋に不具合があり、注ぎ口とは別の空気の穴から熱いコーヒーが出てきて、手の甲にかかり、右手の甲の3分の2を火傷した。	33	11	519	1～9
52	2017	1	17～ 18	貨物上屋棟内にて、到着貨物の引き渡しの為に、長物の貨物を2名で棟外へ運び出す際、バランスを崩して前のめりに転倒し、右手をつき挫傷した。	58	2	611	100 ～ 299
53	2016	12	21～ 22	駐機中の航空機において、ベルトローダーから流れてくる手荷物を搬送車へ積み込む作業中に、右足の脹脛に強い痛みを感じた。	52	19	611	100 ～ 299
54	2016	12	15～ 16	機内乗務中、客室最後方台所内で、立って先任と到着時刻の確認を行っている時、突然大きな揺れが発生した。身体が浮き上がる感じの揺れがあった。カウンターの手すりを両手で下から急に握ったため、右手首に痛みを発症した。	38	19	714	1000 ～ 9999
55	2016	12	13～ 14	飛行機が一番後ろのジャンプシートに座っていた。離陸直前のハイスピードの時に突然、急ブレーキがかかり、飛行機が停止した。その時に首が前後に振れた為、首を痛めた。	51	19	239	50～ 99

56	2016	12	14～ 15	機内ギャレー内にあったカートにロックを掛ける際、ロックが裏側にあるのでカートを一度引き出そうとした際に、機内が大きく揺れたため、その反動で体勢を崩し右側首をねじった。	40	19	239	300 ～ 499
57	2016	10	16～ 17	定期緊急総合訓練時、模擬脱出設備からの脱出実習において、開放されたドア部分と衝突を意識し、より遠方へ飛び出した為、背部から着地できず、左足踵から着地した。	53	3	391	1000 ～ 9999
58	2016	10	10～ 11	客室後方台所で、客室内で旅客の安全確認をし台所に戻った時に、突然の揺れが発生。台所内にいたので、咄嗟に壁についているハンドルを握った。旅客降機後、首の痛みと頭痛を発症した。	44	19	714	1000 ～ 9999
59	2016	10	4～5	機内乗務時、オーブンから温めた食材を取り出す際、左手でオーブンロックをはずし、右手でオーブン上部のラッチを操作した際、蒸気が完全に抜け切っていなかった為、熱風が右手親指の付根から手首内側にかかり火傷した。	27	11	391	1000 ～ 9999
60	2016	10	19～ 20	着陸時、客室後方右側乗務員席にて着陸に備えた姿勢をとっていたところ、着陸時に大きな衝撃があり、首から腰にかけて貫通するような大きな衝撃を感じ、首や腰に違和感を生じた。	29	19	239	1000 ～ 9999
61	2016	10	19～ 20	着陸時、機体後方右側の乗務員席において着陸に備えた姿勢をとっていたところ、着陸した時に大きな衝撃を受け、首を上から押さえ付けられるような圧迫を感じ頸部に違和感を覚えた。	25	19	239	1000 ～ 9999
62	2016	9	11～ 12	シートベルトサインが消灯し、ファーストクラスサービスが始まる時、客室最前方ドア付近で食事トレーを持って客室へ向かっている時、突然の揺れの際に、食事トレーを持ったまま尻から床に落ちた。食事トレーを持っていたため何もできず、割れたグラスで指をケガした。	41	3	714	1000 ～ 9999
				機内客室中央台所でエコノミークラスの食事サービス準備中、台所内最上方の棚よりサービス用品収納箱を取り出そうとした				1000

63	2016	9	18～ 19	時、サービス用収納箱内のサービス用品が棚に引っ掛かり引き出せず、高い位置で見えない為、下から何度も試した上、急いで無理に取り出そうとしたところ、首にピクッとつっぱった感覚が走った。	46	19	611	～ 9999
64	2016	9	11～ 12	着陸時、客室後方左側乗務員用座席で着陸に備え着陸姿勢を取っていた時、接地の瞬間に突然下方に落ちるように着陸した。右足全体にしびれ、右腰下部に違和感が広がり、2時間後には腰に痛みが出始めた。	39	17	239	1000 ～ 9999
65	2016	9	11～ 12	着陸時、客室中央左側乗務員用座席で着陸に備え着陸態勢を取っていた時、接地の瞬間に強い衝撃があった。右肩から右肘にかけてのしびれ、腰に違和感を生じた。	40	19	239	1000 ～ 9999
66	2016	9	15～ 16	乗務時、機内にて接客業務及び保安業務を遂行している際、飛行機が降下を開始と同時に両耳に耳痛と耳閉塞感を覚えた。降下を続けるにつれ耳痛と耳閉塞感は悪化し、最終的に完全に耳が詰まってしまった。	23	12	714	300 ～ 499
67	2016	9	16～ 17	出発点検時、最後方ギャレーでカートを出し、広い場所に運び搭載物品の点検を実施。所定位置に戻す際に、絨毯とギャレーの床の境目のレールにカートタイヤが取られ、バランスを崩し左半身で支えたが、重さに支えきれずに転倒し左足首と甲がカートの下敷きになった。	33	6	362	1000 ～ 9999
68	2016	9	13～ 14	アクセス通路上、2F廊下よりドアを通りアクセス通路に入る時、何かに躓きバランスを崩し転倒。	63	2	417	1000 ～ 9999
69	2016	9	18～ 19	乗務時、客からキャリーケースの座席上物入れへの収納を依頼され、持ち上げた際、背中から腰にかけ鋭く、ズキッと走る痛みを感じた。	29	19	611	1000 ～ 9999
				離陸し上空を航空中、ミールサービスをしていたところ、客室後方の台所内にてカートを収納しようと台所を移動していた				1000

70	2016	9	12～ 13	時、激しい揺れに遭遇した。付近の乗務員座席に着席しようとしたところ、更に強い揺れにあってバランスを崩し、床に左足のくるぶしを強く打ちつけた。	25	3	239	～ 9999
71	2016	8	13～ 14	旅客機に乗り込むべく搭乗ゲートに向かっていたところ、下り坂で歩くスピードに勢いがつき、足がもつれて転倒し、右足首を負傷した。	27	2	921	300 ～ 499
72	2016	8	16～ 17	コンテナに積み込む場所で、出発便の手荷物を積み込んでいる時に、約1mの手荷物を抱きかかえてコンテナに積み込もうとした時に、施設に設けてある段差から足をふみ外してその足元に置いてあった車輪止めに足を乗せてしまい、右足首をひねってしまった。	52	19	417	300 ～ 499
73	2016	8	11～ 12	荷物配送作業終了後、トラック荷台にて整理整頓中、相手方が運転するフォークリフトの積荷が当方荷台の中にまで崩れ、右足を強打し骨折した。	42	6	379	10～ 29
74	2016	7	15～ 16	航空機模擬操縦訓練装置（シュミュレーター）による訓練を行う為、入社後シュミュレーターに出入りするドアを閉める際、ドアとドア枠の隙間に右手親指の先端、指の腹の部分をつまんだ。	47	7	419	1000 ～ 9999
75	2016	7	22～ 23	乗務終了後、空港から宿泊ホテルへタクシーにて移動し、降車の際、立ち上がった時に立ちくらみになった。足元に段差があった為、転落しないように身体を支えようとしたが、右手に荷物を持ったままタクシーのドアに強打し骨折した。	23	3	231	500 ～ 999
76	2016	7	14～ 15	空港着陸時、客室後乗務員座席にて、着陸に備えて着陸態勢を取っていた時、機体が接地する際、やや強い衝撃で接地した。その後、腰と首に鈍痛を感じた。	37	19	239	1000 ～ 9999
77	2016	6	20～ 21	太平洋上空、航空機の操縦中に降下に伴う気圧の変化で急性副鼻腔炎となった。	33	12	714	100 ～

85	2016	5	0~1	空港へ向かうバスの中でバス車内後方座席に背を車体前方に向けて着席し、正面にいた乗務員と打ち合わせをしている時、やや前のめりの姿勢で話していたため、背もたれを背に圧着させていなかった。バスの前方が全く見えていない状態で急にブレーキがかかり、体が背もたれに押し付けられ後頭部が不安定に滑るような感覚があった。	42	17	231	1000 ~ 9999
86	2016	5	0~1	空港へ向かうバスの中でバス車内後方から2列目に着席し、1人で前方を向いて座っていた時、急にブレーキがかかり、衝撃を感じた。前方につんのめる形となり、頭部は45度くらいまで前傾した。座席前にあったテーブルに、左太ももをぶつける等した。	44	17	231	1000 ~ 9999
87	2016	5	0~1	空港へ向かうバスの中でバス車内後方から3列目に着席し、前を向いて隣席の乗務員と話をしていた時、急にブレーキがかかり、前の車に追突した。体が前方に倒れ、尻が浮き、斜め上方に動いた。浮いた腰が、座面に着地した際に、腰部ならびに背部に鈍痛があった。	30	17	231	1000 ~ 9999
88	2016	5	0~1	空港へ向かうバスの中でバス車内後方から3列目に着席し、首のみを軽く左に向けて隣席の乗務員と話している時、急にブレーキがかかった。体全体が前に持っていかれたが、シートベルトをしていたため腰回りにはベルトがくい込んだ。またぶつかった衝撃で体が後ろにふられ、両足が持ち上がり、左すねを足置きにぶつけた。	29	17	231	1000 ~ 9999
89	2016	5	0~1	空港へ向かうバスの中でバス車内後方から4列目に着席し1人で前方を向いて座っていたとき、急にブレーキがかかり前の車に追突した。腰を支点に体が前傾し、額を前方の座席にぶつけた。	26	17	231	1000 ~ 9999
				飛行機乗務時、離陸約30分後に揺れ発生。その後揺れが更に強くなったため最後方CAシートに着席しようと、跳ね上げ式				

90	2016	4	9～ 10	のシート座面に右手人差し指・中指・薬指・小指の4本の指をかけた際に、機体が大きく揺れ自分の体重が右手4本の指にかかった。空港に到着、降機時に手荷物を持ち上げようとした際に右手指に強い痛みを感じた。	27	19	239	1000 ～ 9999
91	2016	4	23～ 24	飛行降下中、耳が気圧の変化により詰まった為、耳抜きをゆっくりにしたところ、バリッという音がし、その後も耳が詰まったり抜けたりを繰り返した。	30	12	714	500 ～ 999
92	2016	4	12～ 13	空港着陸時、L1ジャンプシートで、着陸に備えて、着陸姿勢を取っていたとき、機体が接地する際に、やや強い衝撃で接地した。その際、臀部に違和感、左脚にしびれを感じるようになった。	44	19	239	1000 ～ 9999
93	2016	4	9～ 10	空港着陸後、空港内の税関検査場の階段を下りていた時、後方から降りてくる人がいた為、これを避けようと、振り向いた際、足を滑らせ階段を踏みはずし、転倒した。	34	1	413	300 ～ 499
94	2016	4	12～ 13	機内で昼食サービスの準備中、作業の進め方の意見が合わなかったことから、加害乗務員に突然硬い物で臀部を強打された。	48	90	911	100 ～ 299
95	2016	3	18～ 19	ダンプから降りる際、足を滑らし転落した。	47	1	221	30～ 49
96	2016	3	17～ 18	乗務中に、飛行機内後方のギャレーでドリンクの準備作業をしている間に、強い揺れが続いた為、踏ん張って立っていた。その時点で腰の痛みを感じていたが、その状態のまま下方にあるドリンクが入ったドロワーを引いた際、腰に強い痛みを感じた。	27	19	921	—
97	2016	3	20～ 21	保安検査場内ラウンジ2階にて、営業終了後ラウンジ内の片付けを行うため、コップを運んでいた。同時に清掃担当者が掃除を行っていた。清掃作業時、床は水拭きをしており、少し濡れ	52	2	417	500 ～

				ており足元に気を付けていたが、足を滑らせ転倒を回避するため足で踏んばったことで足を痛めた。				999
98	2016	3	19～ 20	空港着陸時、ジャンプシートで着陸に備えて着陸態勢を取っていた時、やや強い衝撃で機体が接地した。その後、左腰に違和感を覚えた。	34	6	239	1000 ～ 9999
99	2016	3	21～ 22	乗務していた便で国際空港到着後、空港の歩道エスカレーターに乗る前、カバンの車輪部分が歩道エスカレーターに引っかかり、体勢を崩して転倒。左足首をひねり捻挫。	35	2	417	50～ 99
100	2016	3	16～ 17	客室乗務員部オフィス内で乗務に関する打ち合わせを行っている時、乗務前打ち合わせの中で行う体操を行い、着席しようと椅子に腰かけようとしていた時、椅子に浅く腰かけていた為、椅子が後方に動き椅子からすべり落ちて尻もちをついた。	47	2	379	1000 ～ 9999

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.html(職場のあんぜんサイト)

参考：[労働災害の分類の概要](#)

[各小業種における死傷災害100事例 \(-2017年\)](#)に戻る。